〈準ずる教育〉通級指導学級部会

通級による指導（弱視・難聴）を受ける児童・生徒の評価の在り方

Ⅰ　研究のねらい

小・中学校の新学習指導要領が完全実施されて１年余りが経過した。新しい学力観を踏襲・発展する形で、小・中学校、盲・ろう・養護学校小・中学部においては、児童・生徒の評価・評定の在り方が改められた。特に、目標に準拠した評価を一層充実することが必要であり、各学校でも評価規準の作成・改善、指導と評価計画の作成等が積極的に進められている。

通級による指導を受けている児童・生徒は、通常は在籍校で学習し、自立活動や教科の補充指導を受けるために、必要な時間だけ通級指導学級に通級している。通級指導学級で行われた指導については通級指導学級の担当者が評価し、在籍校に報告する。しかし、通級による指導を受けている児童・生徒の中には、障害に基づく種々の困難により、在籍校において、学習指導要領に示される内容の一部の学習が難しい場合がある。

小・中学校においては、評価・評定は各学校の実態に合わせた評価規準を作成し、評価・評定を行っているが、学習活動への参加が難しい場合には、参加するための具体的な配慮、参加できない場合の課題設定の仕方や評価の仕方についても工夫する必要がある。

本部会においては、通級指導学級における指導や評価が、在籍校での学習活動に生かされるための具体的な指導内容・方法について研究開発を行うとともに、在籍校の担任が評価・評定を行う際に、参考となる評価の在り方について研究開発を行う。

Ⅱ　研究の内容

小・中学校では、評価規準が作成され、指導と評価の一体化が進んでいる。障害に基づく種々の困難のある児童・生徒については、一般の児童・生徒と同じ評価規準による評価が困難な場合がある。

障害の状態が、評価規準にどのように影響するか的確に把握し、適切に評価できるよう、具体的な指導上の配慮や工夫について検討する必要がある。そのため、通級指導学級として行う支援や配慮を基にして、通級による指導を受けている児童・生徒の在籍学校における学習活動への具体的な支援や配慮を中心に考察し、実際の授業を通して検証する。

弱視と難聴の児童・生徒に対する学習活動への支援や配慮は、評価上の配慮につながり、指導と評価の一体化を図ることができる。小・中学校おいて、障害に基づく種々の困難のある児童・生徒一人ひとりに対する配慮が検討されることは、今後の特別支援教育の考え方の基となる。評価が難しい観点を明らかにし、学習活動を行う際、障害に配慮した指導の工夫や支援の方法、評価の行い方などについて研究を行う。

1　通級による指導（弱視・難聴）における評価の考え方

弱視の児童・生徒は、見えにくいことに起因して、細かいものを見たり、細かい作業を伴う学習活動に参加したりすることが一部困難な場合がある。また、難聴の児童・生徒は、聞こえにくいことに起因して、正確に聞き取ることを要求されたり、歌ったり発音したりすることを伴う学習活動に参加することが一部困難な場合がある。

通級指導学級では、障害に起因する困難な状態に対し、個別指導計画を作成して、様々な指導を一人一人に応じて行っている。通級指導学級における指導の評価は、一人一人の目標に応じて示され、在籍学級にも報告され、指導と評価の一体化が図られている。

しかし、在籍学級において参加が困難な学習活動に対しては、具体的にどの部分に対して参加が困難であり、それらの学習活動に対してはどのような配慮を行えば、在籍学級内の他の児童・生徒と同一の評価規準を用いて評価できるのか検討する必要がある。さらに、同一の評価規準を用いることが困難な場合、代替の課題を与えたり、個人内評価を活用したりすることについて検討する必要もある。

まず、障害に基づく種々の困難が影響する評価の分析を行い、弱視と難聴のある児童・生徒にとって、評価が困難である点について明らかにする。次に、障害に配慮した指導の工夫とその評価について、具体的な方法を検討する。

2　障害に基づく種々の困難が影響する評価の分析

（1）　弱視に基づく困難があり評価が難しい場合として、つまずきの多い教科である小学校の社会・理科、中学校の数学・保健体育の各教科の評価規準を基に、評価に障害が影響する点について分析する。

（2）　難聴に基づく困難があり評価が難しい場合として、つまずきの多い教科である小学校の音楽、中学校の外国語（英語）の各教科の評価規準を基に、評価に障害が影響する点について分析する。

（3）　それぞれの障害に対する指導とその評価について、「評価に至るまでの支援・配慮」「他の児童・生徒と同一規準で評価するための支援・配慮」に分けて、具体的な方法を提示する。

3　障害に配慮した指導の工夫とその評価

（1）　難聴や弱視の児童・生徒に対する通級指導学級での指導や、在籍学校への具体的な支援について事例研究を行う。

（2）　通級指導学級と連携した在籍学校での授業研究を通して、障害に配慮した学習活動について検討する。

（3）　障害に配慮した指導の内容・方法とその評価について検討を行う。

Ⅲ　弱視の児童・生徒の評価と観点

1　弱視に基づく困難があり評価が難しい場合

弱視の児童・生徒は、細かいものが見えにくい、視野がせまい、遠近感がわからないなどの状態により、配慮なしでは、一般の児童・生徒と同じように学習活動に参加することが困難な場合がある。

観点（「関心･意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」）ごとの評価を基に、全学年の各教科を検討した結果、国語・算数（数学）・社会・理科・体育等の教科の中で、弱視に基づく困難があり、学校で作成している評価規準による評価が難しい点があげられた。しかし、評価に至るまでの支援や配慮を行ったり、評価する際に支援や配慮を行ったりすることで、一般の児童・生徒と同一規準で評価することもできる。

Ａ小学校とＢ中学校で実際に作成された評価規準をもとに、弱視の児童・生徒の評価が難しい規準とその活動内容について分析し、そのための指導上の工夫や、評価を行う際に可能な支援や配慮について、以下のように具体的に示した。

【凡例】「評価が難しい活動」

Ａ：細かいものの認知を伴う活動　　Ｂ:視野･実視界よりも大きなものの認知を伴う活動

Ｃ：複雑な要素が絡み合ったものの認知を伴う活動

Ｄ：遠くのものの認知・近づけないものの認知を伴う活動

Ｅ：立体的なものの認知・遠近感のあるもの認知を伴う活動

Ｆ：正確さを要求される目と手の協応動作を伴う活動　　Ｇ：動体認知を伴う活動

「指導や評価における支援・配慮」

Ａ：評価に至るまでの支援・配慮

Ｂ：他の児童・生徒と同一規準で評価するための支援・配慮

（１）小学校社会

＊評価の観点は、①社会的事象への関心・意欲・態度　②社会的な思考・判断　③観察・資料活用の技能・表現　④社会的事象についての知識・理解の４観点で評価規準を作成してあるが、弱視の児童に対する評価が難しいものは、３．４．５年生の資料を活用した活動の中の、③観察・資料活用の技能・表現の評価規準に絞られた。

学年	単元	観点	障害に基づく困難があり評価が難しい評価規準	評価が難しい活動							指導上の支援・配慮	
				A	B	C	D	E	F	G	A	B
3年	学年オリエンテーション	③	鳥瞰図で，まちにはどのような場所があるかを読み取る。	○		○					弱視レンズの活用 弱視児でも見えやすい資料の準備 【例】 1.4倍程度の拡大 要素の厳選 明度差のはっきりした彩色	学習時間の確保
	わたしたちのＳ区	③	Ｓ区の地図を見て、地形や土地利用の様子を説明する。 Ｓ区の交通について調べたことを白地図にまとめる。 Ｓ区の商店や畑の多く集まっている場所を調べ、白地図にまとめる。 Ｓ区全体の土地利用の様子について絵地図にまとめる。	○	○	○						
4年	私たちの東京都	③	都の形をかいたり，地形を地図にまとめたりする		○	○						
5年	全単元	③	地図の読み取り・資料の読み取り・グラフの作成	○		○		○				
	工業生産を支える人々・自動車工場をたずねて	③	調べる目あてに即して，自動車づくりを観察したり，働く人にインタビューしたりする。		○	○	○				事前学習 弱視レンズの活用 補助説明	

（2）小学校理科

＊評価の観点は、①自然事象への関心・意欲・態度　②科学的な思考・判断　③観察・実験の技能・表現
④自然事象についての知識・理解の４観点で評価規準を作成してあるが、弱視の児童に対する評価が難しいものは、
３・４・５・６年生の観察や実験の活動の中の、③観察・実験活用の技能・表現の評価規準に絞られた。

学年	単元	観点	障害に基づく困難があり評価が難しい評価規準	評価が難しい活動							指導上の支援・配慮	
				A	B	C	D	E	F	G	A	B
3年	チョウをそだてよう	③	キャベツの葉を調べて、教科書の写真と同じような黄色い粒（卵）を見つけ出すことができる。 虫めがねを正しく使って、モンシロチョウの卵や幼虫の成長の様子を観察することができる。 モンシロチョウの卵から幼虫までの成長の変化について、観察した結果を記録カードなどに正しくまとめることができる。	○		○		○		○	他の児童よりも高倍率のルーペの使用 ビデオ教材などによる学習	観察時間の確保
	植物のからだをしらべよう	③	育ってきた植物を観察して、葉や茎の様子を的確に記録することができる。 植物のからだのつくりを観察して、葉、茎、根の形の特徴を的確に捉えて、記録することができる。	○		○		○			弱視児でも見えやすい教材の準備 より見えやすい環境の整備 【例】つくりの大きい植物を選ぶ 弱視レンズの活用	
	こん虫をしらべよう	③	トンボや、バッタの幼虫から成虫になるまでの成長の変化を、チョウの育ち方と比べながら記録することができる。	○		○		○		○	他の児童よりも高倍率のルーペの使用 ビデオ教材などによる学習	学習時間の確保
	花と実をしらべよう	③	花が咲き始めた植物を観察して、つぼみや花などの様子を的確に記録することができる。	○		○		○			視認性の良い教材の準備 弱視レンズの活用	学習時間の確保
	日なたと日かげをくらべよう	③	日なたと日かげの地面の温度を、温度計を使って、正しく測定し、記録することができる。	○						○	弱視レンズの活用	学習時間の確保
4年	あたたかくなると	③	あたたかいころの昆虫などの活動のようすを観察し，的確な記録をとることができる。	○		○		○			他の児童よりも高倍率のルーペの使用 ビデオ教材などによる学習 視認性の良い環境の整備 【例】背景に白や黒の紙をおく	学習時間の確保
	暑くなると	③	ヘチマやヒマワリの成長のようすを観察し，変化をとらえた的確な記録をとることができる。 暑いころの昆虫などの活動のようすを観察し，変化をとらえた的確な記録をとることができる。	○		○		○				
	月と星	③	月の動きを観察して，その位置を記録することができるか。 めあての星座をさがして，星の並びかたや位置，星の明るさや色を観察することができる。				○				パソコンソフト等による学習	
	すずしくなると	③	このころのヘチマの成長変化のようすを的確に記録することができる。 これまでの変化のようすを，あたたかさの変化と合わせてまとめることができる。 このころの昆虫などの活動のようすを観察し，変化をとらえた的確な記録をとることができる。	○		○		○			他の児童よりも高倍率のルーペの使用 ビデオ教材などによる学習 視認性の良い環境の整備 【例】昆虫・動物の標本や剥製の活用	学習時間の確保

4年			水を冷やしたときの変化と氷結するときの温度を調べ，記録することができる。									
	冬の星	③	冬の夜空に見られる星や星座に興味をもち，進んでそれらの名前，位置や並びかた，明るさや色について調べている。				○				パソコンソフト等による学習	
	もののあたたまりかた	③	アルコールランプを正しく使って金属のあたたまりかたを調べ，結果を記録することができる。 水のあたたまりかたについて，調べる順序や実験の方法を工夫しながら調べ，結果を記録することができる。	○				○	○	○	弱視レンズの活用 事前学習	
	生き物の1年をふりかえって	③	このころの昆虫などの活動のようすを観察し，変化をとらえた的確な記録をとることができる。 これまでの観察記録を生き物ごとに比較し，あたたかさの変化と合わせて変化の要点をまとめることができる。	○		○		○			他の児童よりも高倍率のルーペの使用 ビデオ教材などによる学習 視認性の良い環境の整備	学習時間の確保
5年	天気と気温の変化	③	温度計を正しく扱い，それぞれの天気の気温を正確に記録している。	○							弱視レンズの活用	
	魚や人のたんじょう	③	解剖顕微鏡を正しく操作して，卵の中のようすを観察し，そのようすを記録することができる。 卵の中のようすを観察し，成長の目立った変化をとらえて記録することができる。	○		○			○		顕微鏡写真・顕微鏡拡大装置等の活用 個別指導	学習時間の確保
	花から実へ	③	顕微鏡を正しく操作して，花粉を観察し，そのようすを記録することができる。	○		○			○			
	てこのはたらき	③	上皿てんびんを正しく操作したり，てこやてんびんを利用した道具をつくったりすることができる。	○	○				○	○	事前学習 弱視レンズの活用 分銅早見表の準備	学習時間の確保
6年	ものの燃えかたと空気	③	実験の操作をおおむね正しく行い，酸素にものを燃やすはたらきがあるかを調べることができる。 気体検知管を正しく使って，検知管の測定結果を正しく読みとることができる。				○	○	○		事前学習 弱視レンズの活用	
	生き物のくらしとかんきょう	③	気体検知管を正しく操作して調べ，酸素と二酸化炭素の体積の割合の変化を，記録にまとめている。	○								

（3）中学校数学

＊評価規準の観点は、①数学への関心・意欲・態度　②数学的な見方や考え方　③数学的な表現・処理　④数量・図形などについての知識・理解の４観点で評価規準を作成してあるが、弱視の生徒に対する評価が難しいものは、図形に関する活動の中の、②数学的な見方や考え方と③数学的な表現・処理の評価規準に絞られた。

学年	単元	観点	障害に基づく困難があり評価が難しい評価規準	評価が難しい活動							指導上の支援・配慮	
				A	B	C	D	E	F	G	A	B
1年	比例 反比例 比例と反比例の利用	③	比例、反比例の関係を表、式、グラフで表現し、その特徴をよみとることができる。	○	○	○					弱視レンズの活用 事前指導	学習時間の確保
	対称な図形	②	作図した図形が条件に適するか否かを振り返って考えることができる。					○	○		視認性の良い用具の選択 弱視レンズの活用	学習時間の確保

1年	対称な図形	③	線対称や点対称の図形を見つけたり、作ったりすることができる。 ［評価資料］ 提出物、授業に取り組む姿勢、 小テスト、定期テスト	○	○				○		視認性の良い用具の選択 弱視レンズの活用	学習時間の確保
	基本の作図	③	定規やコンパスを使って、角の二等分線などの基本的な作図ができる。	○					○		視認性の良い用具選択 弱視レンズの活用	
		③	基本的な作図方法を用いて、目的の応じて図形をかくことができる。 ［評価資料］ 提出物、授業に取り組む姿勢、 小テスト、定期テスト	○					○			
	いろいろな立体	②	空間における直線や平面の位置関係について考察することができる。 ［評価資料］ 提出物、授業に取り組む姿勢、 小テスト、定期テスト					○			事前指導	
2年	1次関数 1次関数と方程式	③	一次関数の関係を、表、式、グラフで表現することができ、その特徴を読み取ることができる。	○	○	○					弱視レンズの活用 事前指導	学習時間の確保
		③	表、式、グラフを用いて、事象を表現したり、処理したりすることができる。	○	○	○						
		③	連立方程式の解を、グラフを使って求めることができる。	○	○	○						
3年	関数$y=ax^2$	③	$y=ax^2$で表される関数関係を、表や式やグラフで表すことができ、また、aの値の変化による特徴を調べることができる。	○	○	○					弱視レンズの活用 事前指導	学習時間の確保
		③	$y=ax^2$の表、式、グラフを用いて身の回りの事象を表現、処理することができる。	○	○	○						

（4）中学校保健体育

＊　評価規準の観点は、①運動や健康・安全への関心・意欲・態度　②運動や健康・安全についての思考・判断　③運動の技能　④運動や健康・安全についての知識・理解の４観点で評価規準を作成してあるが、弱視の生徒に対する評価が難しいものは、各種目や競技の中の、③運動の技能の評価規準に絞られた。

学年	単元	観点	障害に基づく困難があり評価が難しい評価規準	評価が難しい活動							指導上の支援・配慮	
				A	B	C	D	E	F	G	A	B
全学年	バレーボール パス、サーブ、スパイク ゲーム中心での授業 バスケットボール パス、ドリブル、シュート、ディフェンス、ゲーム	③	チームや自分の能力に適した練習やゲームを通して個人技能を高める。 ［評価資料］ 実技テスト 自己評価表、行動観察					○		○	視認性の良い環境整備 例）照度の調整 照明・暗幕・位置 練習時間の確保 練習方法の工夫 例）カラーボールの使用 個別の練習 練習相手の工夫	ゲームやチームプレーは、個人でできる別な課題に替える。 例）対人でのパスシュート等
	陸上競技 走り高跳び （ベリーロール等の基本練習、助走や踏切、空中動作の練習） 走り幅跳び （助走や踏切、空中動作の練習）	③	自分の能力に適した技能のポイントをつかみ技能を高め競技したり記録を伸ばすことができる。 ［評価資料］ 実技テスト					○		○	視認性の良い環境整備 例）高飛びのバーにカラーテープを巻く 位置の明瞭化（カラー石灰の使用） 練習方法の工夫 例）伴奏者をつけての試走	

	テニス フォアハンド、バックハンド、サービス、ボレー、スマッシュ、ゲーム中心の授業展開	③	運動特性に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。 ［評価資料］ 実技テスト、行動観察					○		○	視認性の良い環境整備 練習時間の確保 練習方法の工夫 例）大きいボールを使用 コーン等目印の使用	ゲームやチームプレーは、個人種目替える。 例）サーブ等
	サッカー ドリブル、シュート、トラッピング、パス、ゲーム中心の授業展開 バトミントン 卓球	③	チームや自分の能力に適した練習やゲームを通じて集団技能や個人技能を高め、自己技能に応じたゲームの攻防ができる。 ［評価資料］ 実技テスト、行動観察					○		○	視認性の良い環境整備 練習時間の確保 練習方法の工夫 例）カラーボールの使用 至近距離でのラリー	ゲームやチームプレーは、個人種目に替える。 例）対人パス、ドリブル、サーブ等
	器械運動 跳び箱運動	③	ある程度できる技や新しく身に付けた技能を高め競技したりできる ［評価資料］ 実技テスト、行動観察					○		○	視認性の良い環境整備 例）カラーマットの使用 手足をつく位置にカラーテープを貼る 練習方法の工夫	

2　指導事例

（1）　社会の授業における見えやすい地図資料の作成による支援と配慮（小学校３・４年）

①　ねらい

小学校３・４年の社会科「私たちの住む区・市」の評価規準の一つに、「地図を見て、地形や土地利用の様子を説明する」がある。図１は、土地利用の様子を説明させるために副読本に掲載された土地利用図である。この地図資料は、①土地利用の様子が非常に細かいモザイク状に表現されている、②明度差の近い色が使われているとともに、色と色の境界が明確にされていない、③要素が複雑に配置されている、などの理由により、弱視の児童にとっては、非常に認知が困難なものであり、この図から土地利用の様子を読み取るのは不可能である。しかし、視認性の高い図を使用すれば、弱視の児童でも、在籍学級で同じように活動ができ、評価規準に到達することが可能である。

そこで、教材の目的から離れないように留意しつつ、図２のような視認が可能な土地利用図の作成を行った。

②　教材作成の実際

教材の作成の手順は、まず、原図となる資料をスキャナーで読み取り、作成する図の下絵とする。次に、コンピュータ用グラフィックソフトウエアのレイヤー機能を利用し、区界・河川、道路・鉄道、商店・会社の多いところ、畑の多いところ、公共施設・公園、文字・凡例と別々のシートに下絵をなぞりつつ、データを以下の要領で入力する。

・拡大率は、原図の１．４倍、またはＡ３版の用紙１枚のどちらか小さい方に収める。
・文字の大きさは、１４ポイント程度を標準とする。
・ある一定以下の面積の部分は削除し、周囲を色で塗る。
・配色にあたっては、明度差を付けるよう注意し、明度差の近い色は、斜線や格子などに塗り方を変えて、識別しやすいようにする。
・色の境界線をはっきりとつける。
・要素は必要最小限にとどめるとともに、河川・道路・鉄道等の名前は、凡例で示す。

③　弱視の児童への指導上の配慮

地図など、資料の読み取りでは、原則として同じ物を使用しないと、読み取った内容に違いが出て評価が困難になる場合がある。そこで、視認の困難性を解消した教材を作成した場合には、弱視の児童だけではなく、在籍学級の他の児童にも同じ物を使用させることもある。そのためには、課題から離れていないか十分留意しながら作成するとともに、在籍学級の児童にも使いやすいか、在籍学級の担任と検討しあい、予め確認しておく必要がある。

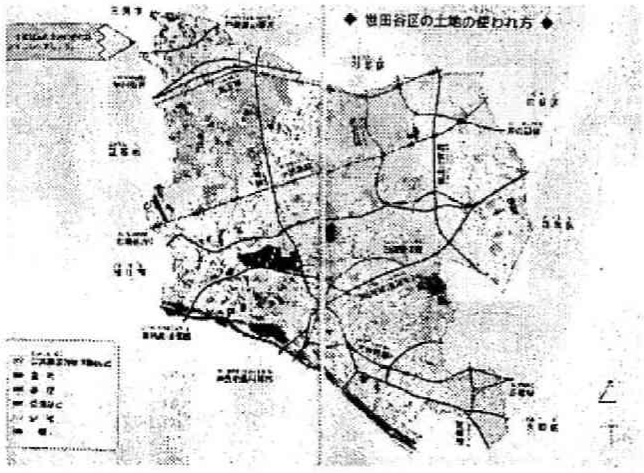

図１　副読本にある土地利用図（原図）

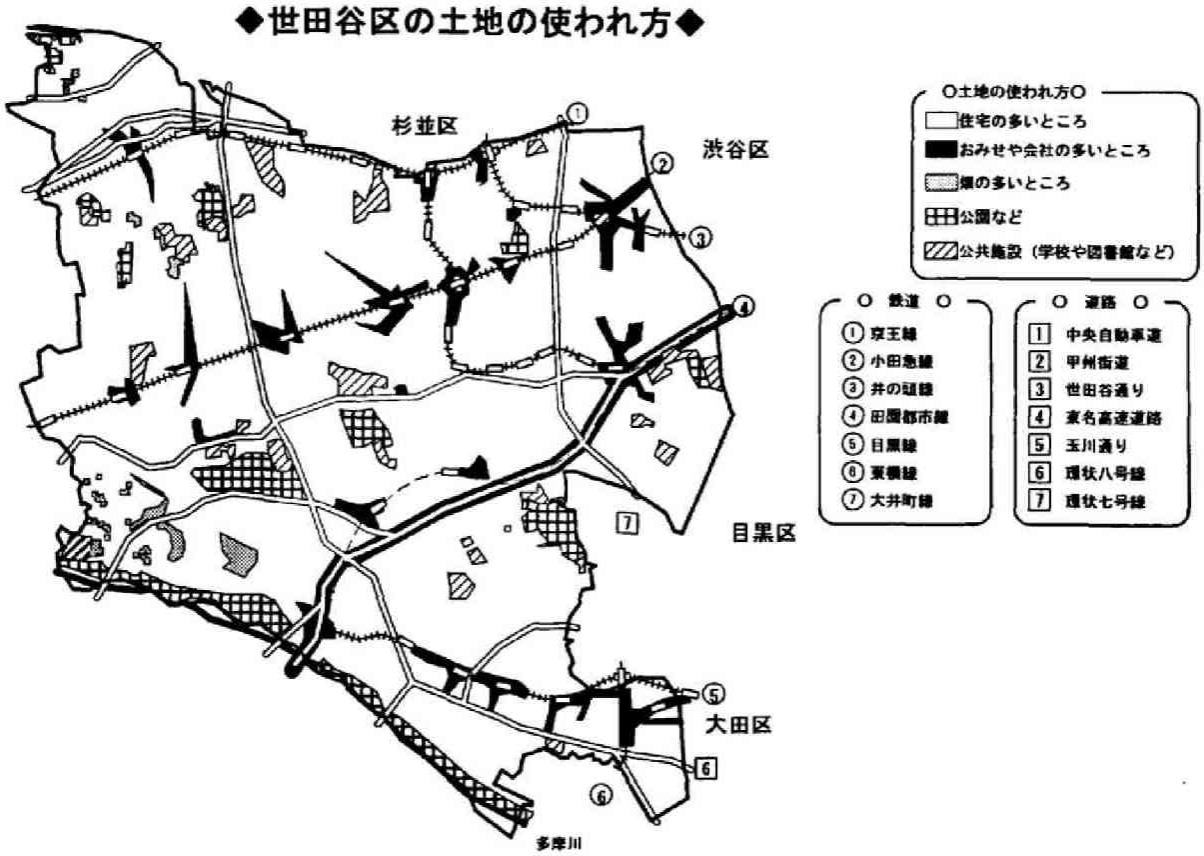

図2　弱視の児童にも見えやすい工夫をした土地利用図

（2） 数学のグラフを用いた事前学習における支援と配慮（中学校２年）

① ねらい

弱視の生徒が在籍学級において、１次関数を学習する上では、グラフを正確に読み取ることや、式をグラフに表すことをスムーズに行えることなどが必要になってくる。

そこで、通級指導学級では、市販の１㎜単位の方眼紙の使用を避け、４㎜単位の方眼を使用し、グラフの読み取り、グラフの作成の指導を行った。１次関数を学習する上で困難な点は以下のとおりである。

・市販の１㎜単位の方眼紙を使用して作業すること。

【理由】目盛りが細かく認識しにくい。

色が薄く認識しにくい。

・グラフの全体像の把握、座標やグラフを読み取ること。

【理由】弱視レンズの使用により、見たい部分は拡大されるが、一部分しか認知しにくい。

・離れた方眼黒板を読み取ること。

【理由】弱視レンズを使用しないと読み取りにくい。

② 数学（単元：１次関数とグラフ）の事前学習の実際

学習活動	教科の補充指導における配慮
１．１年生で学習した座標の確認をする。	・照度の調整をする。 ・作業する姿勢保持のため、傾斜机を利用する。
２．方眼紙からの読み取りと書き込みをする。 （1）マス目が１㎝単位の方眼紙を使用する。 ①グラフから座標の読み取り練習をする。 ②表から座標をグラフに書き込む練習をする。 ③方眼紙上の任意の２点を直線で結ぶ練習をする。 ④ｙ＝２ｘ＋１の値の表をもとにグラフを書く。（表をもとにグラフに座標を書き込み、定規を使用して線を引く） ⑤ｙ＝２ｘ＋３のグラフを書く。傾きと切片を利用して書くために２点目以降は、右へいくつ、上にいくつと順番を打てるようにする。 ⑥他の１次関数のグラフを書く練習をする。 （2）次に教科書に載っているマス目が４㎜単位の方眼で、（1）の①から⑥の練習をする。	・弱視レンズを使用しなくてもすむ、マス目の大きい方眼紙を使用する。 ・グラフを書いた時、正確な線との誤差が１㎜程度に収まるようにする。 ・直線と点とのずれを１㎜程度に収まるようにする。 ・マス目の数えを正確に、速く行えるようにする。 ・弱視レンズを使用する

３．方眼黒板からの読み取り 方眼黒板から３ｍ離れた位置から単眼鏡を利用して読み取る練習をする。 (１)方眼黒板に示した座標を口頭で答える。 (２)方眼黒板に示した座標を手元の方眼紙（マス目４㎜）に書き込む (３)方眼黒板に示したｙ＝３ｘ＋１のグラフにおけるマス目の交点（Ｘ座標の値もＹ座標の値も整数値）の座標を口頭で答える。 (４)方眼黒板に示したｙ＝２ｘ－３のグラフから切片と傾きを読み取り、方眼紙にグラフを書く。 ①ｙ軸をさがし、切片を見つける練習をする。 ②切片をもとに傾きを利用して２点目をさがす。 ③切片と傾きより方眼紙に２点を取り、定規を使い直線を引きグラフを完成させる。	・単眼鏡を使用する。 ・方眼黒板は白地に黒線のものを使用する。 ・ｙ軸の線をわかりやすく、太めに書いておく。 ・２点を的確に探し出し、２点間の数を正確に数えられるようにする。 ・このとき２点から引いた直線が正確に引けているか、傾きをもとに他の点を調べ確認する。

③　指導上の配慮

・教科書に使われているマス目が４㎜の方眼では、比較的スムーズに一次関数のグラフの読み取りやグラフを書くことができるようになった。しかし、一つの方眼に複数のグラフが書かれている場合は、読み取れない場合もある。また、方眼黒板から単眼鏡を使用して、１次関数のグラフを読み取ることは、正確になってきたが、時間がかかることがある。

・弱視の生徒にとっては、マス目が１㎜単位の方眼紙の使用、グラフの全体像の把握、座標やグラフの読み取りや書き込み、方眼黒板からの読み取りが困難である。しかし、１㎜単位の方眼紙の使用を避け、４㎜単位の方眼紙を使用するなど、視認性の高い教材を使用したり、事前指導をていねいに行ったりすることにより、一般の生徒と同じ評価規準により評価をすることができる。また、弱視レンズを使用した読み取りやグラフを書く作業は、一般の生徒より時間がかかるので、充分な作業時間を確保することが必要である。

・弱視の児童・生徒に対する配慮を行う場合、児童・生徒の見えにくい状態は個々によって様々である。医療機関や通級指導学級などと連携を図りながら、一人一人の状態をよく把握し、個に応じた配慮を行うことが大切である。

Ⅳ　難聴の児童・生徒の評価と観点

1　難聴に基づく困難があり評価が難しい場合

難聴の児童・生徒は、補聴器を使用しているが、授業などの活動場面で聞き取ることが難しく、配慮なしで、一般の児童・生徒と同じように学習活動に参加することが困難な場合がある。

観点（「関心･意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」）ごとの評価を基に、全学年の各教科の評価について検討した結果、特に、国語・算数（数学）・音楽・英語の教科の中で、難聴に基づく困難があり、学校で作成している評価規準による評価が難しい点があげられた。しかし、評価に至るまでの支援や配慮を行ったり、評価する際に支援や配慮を行ったりすることで、一般の児童･生徒と同一規準で評価することもできる。

Ａ小学校とＢ中学校で実際に作成された評価規準をもとに、難聴の児童・生徒の評価が難しい規準とその理由について分析し、そのための指導上の工夫や、評価を行う際に可能な支援や配慮について、以下のように具体的に示した。

（1）　小学校音楽

【凡例】

「評価が難しい活動」

Ａ：リズムの認知を伴う活動　　Ｂ：旋律の認知を伴う活動

Ｃ：フレーズの認知を伴う活動　　Ｄ：音色の認知を伴う活動

Ｅ：強弱の認知を伴う活動　　Ｆ：速度の認知を伴う活動　　Ｇ：和声の認知を伴う活動

「指導や評価における支援・配慮」

Ａ：評価に至るまでの支援・配慮

Ｂ：他の児童・生徒と同一規準で評価するための支援・配慮

＊　評価規準の観点は、①音楽への関心・意欲・態度　②音楽的な感受や表現の工夫
③表現の技能　④鑑賞の能力の４観点で作成してあるが、
※太字は「困難」と考えられる部分、＿＿は障害に対する具体的な支援や配慮

学年	単元	観点	障害に基づく困難があり評価が難しい評価規準	評価が難しい活動							指導上の支援・配慮	
				A	B	C	D	E	F	G	A	B
1年	みんななかよし	①	**自分の声や友達の歌声を聴き、友達と一緒に歌うことを楽しんでいる。**	○	○	○	○	○	○	○	リズム、強弱を視覚的な記号(大小の丸等)で表わす。 曲のリズムに合わせて体を揺らす等、身体表現を伴わせて歌わせる。	視覚的な記号を手がかりに、正しいリズムを取れている。 曲のリズムに合わせて楽しんでいる様子を身体表現から見る。
		④	**音楽を聴いて、そのよさや楽しさを感じ取ろうとしている。**	○	○	○	○	○	○			
		②	**楽曲の気分を感じ取って身体表現をしたり、音楽に合わせて歌う楽しさを感じ取ったりしている。**	○	○	○	○	○	○			
		③	**声を揃えて歌ったり、拍の流れに**	○	○	○	○	○	○	○		
	おんがくにあわせて	②	**楽曲の気分を感じ取って、身体表現や歌い方を工夫している。**		○	○	○	○	○	○	楽曲のイメージを色、感触、具体物等で伝え、身体表現を工夫させる。	友達と一緒に楽しんでいる様子を身体表現から見る。
		②	**楽曲の気分を感じ取って、身体表現をしたり、音楽に合わせて歌う楽しさを感じ取ったりしている。**		○	○	○	○	○	○		

1年	いいおとさがして	①	イメージに合った音を探して表現する活動に、進んで取り組んでいる。				○				音色のイメージを擬音語や擬態語で表す。	音色のイメージを擬音語や擬態語に意欲的に置き換えようとしている。
		④	いろいろな音色の特徴をとらえながら聴こうとしている。				○				楽器をイメージした擬音語・擬態語を当てはめる。	
		②	いろいろな楽器の音色の違いを感じ取って、演奏の仕方を工夫している。				○					
		③	場面のイメージに合う音を即興的に表現している。			○	○	○	○			
	ようすをおもいうかべて	②	情景を想像したりイメージを膨らませたりしながら、聴く楽しさを感じ取っている。		○	○	○	○	○		情景や気分を風景画、情景画、表情等で伝え簡単な身体表現をする。	風景画等を見て身体表現を楽しんでいる。
		③	音楽全体の気分を感じ取って聴く。		○	○	○	○	○			
	みんなであわせて	①	主な旋律を口ずさんだり体を動かしたりしながら、楽曲全体の気分を感じ取ろうとしている。	○	○	○		○		○	手刀を上下させることで主旋律を、イメージさせる。	手刀を頼りに主旋律をイメージしようとしている。
		②	主旋律にリズム伴奏を加えて演奏する楽しさを感じ取って、表現の仕方を工夫している。	○	○			○	○		手刀を上下させながら、リズムを口ずさむ。	
		②	情景を想像したりイメージを膨らませたりしながら、聴く楽しさを感じ取っている。	○	○	○	○					
		③	音楽の中から自然に聞こえてくる楽器の音や擬音に気を付けて聴く。		○	○	○	○	○			
3年	ひろがれうたのわ	①	歌声に関心をもち、進んで明るい声で歌おうとしている。		○	○				○	題材の中から1～2曲を選び、歌詞を正しく覚えさせる。	選曲した歌の歌詞を正しく唱えることができる。
		②	範唱や友達の歌声を聴いてきれいな歌声に気付いたり、声の出し方を工夫したりしている。		○					○		
	やわらかい声で歌おう	②	歌詞の気分を感じ取って歌ったり、範唱や友達の歌声を聴き、その良さを感じ取っている。		○	○				○	題材の中から1曲選ばせる。	リズムと歌詞が正しい。
		③	自分の声の持ち味に気付き、自然で無理のない声で歌っている。							○	教師の歌唱場面を録画したビデオにより事前学習をさせる。	リズムと歌詞が正しい。
	ドレミとなかよし	②	歌唱表現の美しさや友だちと声を合わせて歌う楽しさを感じ取って歌っている。		○					○	題材の中から1曲選ばせる。	リズムと歌詞が正しい。
		③	楽譜と音との関連に気付きハ長調の旋律を模唱したり視唱したりしている		○					○	教師の歌唱場面を録画したビデオにより事前学習をさせる。	ハ長調の旋律を視唱できる。
	リズムにのって演奏	②	音や声の重なり、音色や人の声の特徴を感じ取って聴いたり、表現を工夫している。		○	○				○	リコーダーの個別指導をする。	正しい指遣いができる。
	いい音見つけて表現	④	曲想を感じ取って聴いたり、曲想の移り変わりの楽しさを味わおうとしている。		○	○	○			○	打楽器のパート練習を行い、正しく打てるようにさせる。	打楽器のパートを正しく打てる。
		③	曲想を生かした歌い方や楽器の演奏をしている。		○	○	○					
	みんなで合わせて	①	声や音の響き合いに関心をもち、進んで歌ったり演奏したりしようとしている。		○		○			○	題材の中から1曲選ばせる。	リズムと歌詞が正しい。
		②	声や音の響き合いを感じ取って、楽器の組み合わせを工夫している。		○		○			○	教師の歌唱場面の録画による事前学習をさせる。	正しい指遣いができる。
		③	互いの音を聴きながら、柔らかい声で歌ったり、きれいな音色で楽器を演奏することができる。				○			○		打楽器のパートを正しく打てる。

	様子を思い浮かべて	①	楽曲の気分の変化や楽器の音色に関心をもち、進んで聴いたり表現したりしようとしている。		○	○	○	○	○	○	楽曲のイメージに近い絵や詩等を手がかりに、曲想について周囲の友達と話し合わせる。	視覚的手がかりを駆使して曲、曲想を描こうとする
		②	曲想を感じ取って歌い方や楽器の演奏を工夫している。		○	○	○	○	○	○		
		③	歌詞の表す情景や旋律の抑揚から、楽曲の気分を感じ取って表現を工夫することができる。		○		○					
	歌声を広げよう	④	2声の重なりの響きを感じ取ったり、曲想を味わったりしながら範唱や友だちの演奏を聴くことができる。		○	○	○			○	題材の中から1曲選ばせる。 教師の歌唱場面を録画し、それを見て個別に練習させる。	リズムと歌詞が正しい。
		②	2つの旋律の重なりを感じとって、歌い方を工夫している。		○					○		
	ふしのまとまりを感じて歌おう	④	旋律のくり返しや変化、長調と短調の響きの違いを感じ取って聴くことができる。		○						作曲者や、作詞者の背景や歌詞の解釈等の学習をさせる。	資料をもとに、感想をまとめる。
	音の重なる美しさを感じて表現しよう	④	響きの美しさや、演奏形態によって表現の違いを感じ取って聴くことができる。		○	○	○				課題曲を減らす 二人組での二部合唱の練習をさせる。	二人組で、正しいリズム、速度、歌詞で合唱ができる。 自分で選択した楽器で、正しいリズム、速度で演奏ができる。
		②	人の声や楽器の音色の特徴を感じ取って、美しい響きを求めた表現を工夫している。		○	○	○					
		③	重なり合う声の響きや楽器の音色に気をつけて、合唱したり合奏したりすることができる。		○							
6年	曲の山を生かして表現しよう	①	自分自身の表現意図をもって豊かな歌唱表現をしようとしている。		○	○	○			○	曲のイメージにあった絵や写真を見たり、歌詞の解釈を学習させる。	資料をもとに感想をまとめる。 視覚的手がかりをもとに曲想をイメージする。
		④	友だちの表現の良さを感じて聴いている。		○	○	○					
		③	理解した歌詞の内容や楽曲の構成にふさわしい表現の仕方を工夫して歌っている。		○	○	○			○		
	アジアや世界の音楽に親しもう	②	旋律やリズムの特徴を感じ取って聴いている。		○						アジアの国々について写真を見たり、資料を読んだりさせる。	資料をもとに、感想をまとめる。
		③	様々な音楽の特徴を感じて表現している。		○	○	○					
	響きのある声で歌おう	②	曲想や場面に合う歌い方を工夫している。		○		○				課題曲を減らす。 教師の歌唱場面の録画に合わせて歌う練習をさせる。	リズム、強弱、速度に気をつけ、正しい歌詞で歌っている。
		③	豊かで響きのある声で歌っている。		○	○	○			○		
	気持ちを込めて合奏しよう	①	音楽や音色の特徴、楽曲全体の響きなどに関心をもち、友だちと協力して合奏しようとする。		○	○	○				作曲者や作詞者等の背景に関する資料を読ませる。 資料をもとに曲想について、友だちと話し合わせる。	資料をもとに感想をまとめる。 曲想について考えを発表できる。 リズム、強弱、速度に気をつけ、演奏したり、歌ったりしている。
		②	音楽の特徴を生かした表現の仕方を工夫している。		○	○	○					
		③	奏法や音色、音のバランスに気をつけて表現している。		○	○	○					

（２） 中学校外国語（英語）

【凡例】「評価が難しい活動」

A：話声の認知を伴う活動（話声を言葉として正確に聞き取ることが困難。そのため、語の発音・強勢、文のイントネーション・リズム等発話が困難。）

B：口形の認知を伴う活動（場合によって、話し手の口形を読みとって、話しを理解することが困難。）

C：オーディオ機器による話声の認知を伴う活動（機械音を聞き取ることが困難。）

「指導や評価における支援・配慮」

A：評価に至るまでの支援・配慮

B：他の児童・生徒と同一規準で評価するための支援・配慮

＊ 評価規準の観点は、①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ②表現の能力 ③理解の能力 ④言語や文化についての知識・理解の４観点である。※太字が「困難」と考えられる部分

（全学年・全単元において、主な活動が同一のため、第2学年1学期の内容を抜粋）

学年	単元	観点	障害に基づく困難があり評価が難しい評価規準	評価が難しい活動 A	B	C	指導上の支援・配慮 A	B
2年	過去形 規則変化動詞 接続詞	② ② ③	**強勢、リズム、イントネーション、区切りなど、基本的な英語の音声に注意して正しく言うことができる。** **規則動詞の過去形（の文）を正しく発音することができる。** **規則動詞の過去形（の文）の発音を聞き取ることができる。**	○ ○ ○	○	○	【単語の発音と意味】 ゆっくりした肉声で、口形を見せながら聞かせる。 過去形のedなど、特に聞き取りにくい発音は強調して聞かせる。 発音を初めにカタカナで表記し、発音させ、徐々に英語特有の発音に導く。 発音記号の読み方を習得させ、発音練習をする。 正しく発音されているか、教員が確認する。 単語の意味を正しく理解しているか、確認する。 品詞の理解のため、フラッシュカードを、品詞ごとに色分けする。 【単語の強勢】 強勢部分に色をつけ、視覚的に補助する。 教員は、強勢部分でこぶしを突き出すなど、身体表現をつけて示す。生徒にも同様に身体表現を付随させて習得させる。 【文のリズム】 手拍子に合わせる、全身でリズムを表現するなどして、文を読む。 an appleなど単語の読みがつながる場合には、印をつけて注意を促す。 【文のイントネーション】 疑問文等の基本的なイントネーションには、矢印を書き、発音のイメージをつける。 【単語や文の聞き取り】 オーディオ機器を使用せず、ゆっくりした肉声で、口形を見せながら聞かせる。	発音をカタカナに置き換えて、発音することができる。 強勢を意識して発音しようとしている。 リズムを意識して発音しようとしている。 疑問文等基本的なイントネーションを、矢印で書いて表現することができる。
	過去形 不規則変化動詞	① ② ② ③	**ペアでの会話の役割練習において、積極的に参加しようとする。** **強勢、リズム、イントネーション、区切りなど、基本的な英語の音声に注意して正しく言うことができる。** **不規則動詞の過去形（の文）を正しく発音することができる。** **不規則動詞の過去形（の文）の発音を聞き取ることができる。**	○ ○ ○ ○	○ ○	○		
	過去形	① ② ③ ④	**CDの説明文を聞き、その中のキーワードをとらえようとする。** **CDの英文を聞き、印象に残った文を英語で書くことができる。** **CDの英文を聞き、どの絵について説明されているか理解することができる。** **CDから登場人物が何時に何をやったかを聞き取り、日本語で書くことができる。**			○ ○ ○ ○		
	理由を聞く	① ②	**ペアでの会話の役割練習において、積極的に参加しようとする。** **強勢、リズム、イントネーション、区切りなど、基本的な英語の音声に注意して正しく言うことができる。**	○ ○	○	○		
	過去進行形	① ②	**ペアでの会話の役割練習において、積極的に参加しようとする。** **強勢、リズム、イントネーション、区切りなど、基本的な英語の音声に注意して正しく言うことができる。**	○ ○	○	○		

		②	be動詞の過去形を正しく発音することができる。	○			【音読】 オーディオ機器は使用せず、教員が肉声で読みあげ、教科書の音読箇所を指でフォローする。 拡大コピーで、音読文を拡大し、音読箇所を示しながら読む。 【文法事項の確認】 写真・絵・実物等の具体物を示し、視覚からイメージを膨らませ、理解の援助とする。 板書は、→や色を多用し、視覚的にわかりやすくする。 頻繁に使われる表現（慣用表現等）は、カードにしておく。 【英文和訳】 和訳があいまいにならないよう、プリントにして渡す。 主語・動詞など、色別して板書し、和訳の基本を視覚的に定着させる。 【ペアワーク】 雑音がひどくなるような一斉の練習にせず、静かな環境で行う。 ペアは難聴の生徒に、口形をはっきり見せて発音する。また自分のスキットを言い終わったら、合図する。 【英語での応答】 ゆっくりした肉声で、口形を見せながら聞かせる。 【ビデオ教材】 字幕つきの教材を用意する。 予め内容を文字に起こし、視聴の際にその文字プリントを見せる。	単語や英文を文字で見て、内容を把握できる。 発音をカタカナに置き換えて、読むことができる。 筆談できる。
		②	過去進行形の文を正しく発音することができる。	○				
		③	be動詞の過去形（の文）を聞き取ることができる。	○	○	○		
		③	過去進行形の文を聞き取ることができる。	○	○	○		
	病気、けがについて聞く	①	ペアでの会話の役割練習において、積極的に参加しようとする	○	○			
		②	相手の体調をたずねたり、その答えを言うことができる。	○	○			
		③	強勢、リズム、イントネーション、区切りなど、基本的な英語の音声に注意して正しく言うことができる。	○		○		
	未来形	①	ペアの会話の役割練習において、積極的に参加しようとする。	○	○			
		②	強勢、リズム、イントネーション、区切りなど、基本的な英語の音声に注意して正しく言うことができる。	○		○		
		②	未来の助動詞を使った文を正しく発音することができる。	○				
		③	未来の助動詞を使った文を聞き取ることができる。	○	○	○		

2　指導事例

（1）　音楽の指導や評価における支援と配慮（小学校6年）

① 音楽科学習指導案

◆題材名　「曲の気分をとらえて」

◆題材のねらい〈目標〉

歌詞の表す情景を思い浮かべて、表情豊かな歌い方ができるようにする。

曲想を感じ取って、想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようにする。

◆対象児童の様子

校内に設置されている難聴通級指導学級に通級している本児は、聴力の程度は90デシベルから100デシベルである。在籍学級での教師の話は、補聴器を装用していても、ほとんど聞き取れず、口形を見たり、板書やプリント類の視覚的な教材を手がかりにしたり、周囲の友達や教師の支援も得ながら授業に参加しており、歌唱では隣の児童が楽譜を指でさして歌っている。本児の独唱やリコーダー奏の表現の良さを認めることのできる学級である。

難聴通級指導学級では、音楽の担当教諭からの依頼や本児の要望にも応えている。音楽の担当教諭と学習時の具体的な工夫について検討し合ったり、本児に対しては、通級指導の時間の中で、音楽の事前学習のための支援にも取り組んだりしている。

◆本時の教材及び教材選択の理由

「グランド電柱」：宮沢賢治　詩、林光作曲

秋の始まり、岩手の田園風景が感じられる歌。メロディーやリズム、前奏、間奏などからすずめの動きも感じられる。すずめたちの気持ちになって歌う。

「いるか」：谷川俊太郎詩、林光作曲

・"いるか"の読み方で、詩の内容が変化する面白さに気づかせる。更に曲を付けることで、詩のもつリズムや面白さをより良く感じさせる。

・いろいろな読み方のできる詩で、児童が想像し表現を工夫するのに適している。

「失われた歌」チャールズ　チルトン作曲　イ短調　（自然短音階）　4/4拍子

・自然短音階のこの曲は6年生の心情に合い、本児にとっても拍を感じやすい曲である。

◆本時の学習

ア　本時の目標

・音楽の楽しさを共有する。

・詩の持つリズムや言葉の面白さを感じ取り、イメージを持って楽しく歌う。

・曲の気分を感じ取り、互いの音を聴き合いながら二部合奏をする。

イ　本時の展開

時間	学　習　活　動	◇支援・留意点　◎評価	◆難聴の児童への支援　●評価
6分	1、歌(既習曲) 「夏の風の歌」 「ポランの広場」 「ほたる」 「てぃーちでぃーる」 「わが想い風になり」	◇緊張をほぐし、楽しい雰囲気がでるように曲を選びピアノを弾く。 ◎豊かな響きのある声で、歌うことに意欲をもって参加したか。〈関心・意欲〉	◆楽譜か教師の口形を見るか選ばせる。 ◆口形を選んだ場合は、教師はピアノで遮蔽されない位置に座り、はっきり口をあけ本児に見えるように歌う。
4分	2、歌 「グランド電柱」	◇情景のイメージが伝わるよう伴奏を工夫する。 ◎すずめの動きをイメージできたか。〈表現の工夫〉	◆教師の独唱を録画し、楽譜とともに渡し、予習させる。 ◆表情を付け伴奏し情景をイメージさせる。 ●視覚的な絵などを見せ、表情からすずめの動きをイメージできたかどうか判断する。
15分	3、歌「いるか」 ・詩を読む ・"いるか"をイメージして読む ・自分の速度で読む ・友達の詩を聞く ・範唱を聴く	◇いるかの絵と[いるか？]の文字カードを提示し、いるか」の詩をどう読むか考えさせる。 ◎"いるか"を自分のイメージで読めたか。〈表現の工夫〉 ◇人によって詩の感じが変わるのに気付かせる。 ◇詩と曲の面白さが伝わるように範唱する。	◆教師の独唱を録画し、楽譜とともに渡し、予習させる。 ◆いるかの絵と[いるか？]の文字カードが意味するものを個別に確認する。 ◆発表児の口形と詩が同時に見えるよう、前後の黒板に歌詞を掲示する。 ◆手話と表情を付け、体でリズムを強調し、面白さが伝わるよう範唱する。

	・歌詞唱をする	◇自分のイメージを思い描き歌うよう促す。 ◎詩のもつリズムやことばの面白さを感じながら歌えたか。〈表現の工夫〉	
15分	4、二部合奏 「失われた歌」 伴奏の響きを聴きながら、合奏をする。 ・①のパートの階名唱・リコーダー奏 ・②のパートの階名唱・リコーダー奏 ・伴奏に合わせて、両パートの合奏	◇伴奏と自分のパートや、もう一つのパートとの響きあいを聴きながら演奏するように助言する。 ◎伴奏の響きを感じながら、合奏できたか。〈表現の技能〉	◆全体でのパート練習の時は、本児の前に立ち、楽譜をさしながら、拍の感じをつかませる。 ◆同じパートの友達の指遣いを見ることができるよう、並ぶ位置を配慮する。 ●友達の指遣いも見ながら、正しい指遣いで演奏できたかどうか確認する。
5分	5、歌(既習曲) 「詩人」 「ミュウズのお気に入り」 「狩人の歌」	◇本時の雰囲気とは異なる曲を選び、児童の気持ちを切り替えて、印象の異なる音楽の面白さを感じさせる。 ◎自分や友達の歌声や歌唱表現に興味をもって聞いているか。〈鑑賞〉	◆選んだ曲を知らせ、楽譜や歌詞表を用意し、歌詞を追えるようにする。本児が口形を見ることを選んだ場合は、口形がはっきり見えるよう教師の位置を考慮する。

② 難聴の児童への配慮 ～音楽の授業に参加しやすくするための工夫～

◇座席についての日常的な配慮

・教師がピアノを弾きながら歌うときに、口形が見やすい位置にする。

・他の児童が見渡せる位置にする。

・難聴の児童の隣りに、歌唱の際、楽譜を指で追い、歌っている箇所を示せる児童を座らせる。

＊毎回、同じ児童にならないような配慮

・リコーダー合奏の際は、本児の斜め前に同じパートを吹く、リコーダーの技能の高い児童を座らせる。

＊本児がその指遣いを見ながら演奏できるようにするため

・譜面台の活用。

＊本児や補助する児童・教師の両手が空くため

◇題材の選択についての配慮

・テンポが遅めの曲を選ぶ。

・拍が取りやすい曲など、児童の実態に合わせて選択できるよう何曲か用意しておく。

・手話については、難聴の児童の授業への参加意欲を促すために、部分的に併用することも考えられる。

・歌唱のテストでは、課題曲を数曲用意する。

＊全体の前で歌うかどうか、本児の意向も聞きながら、本児に対する評価ができる曲を教師が選び、他の児童と同じテストを受けさせる。

◇指導方法についての配慮

・歌の練習の仕方の工夫をする。

＊一曲通して歌うのではなく、難聴の児童のいるクラスでは、歌い易いように、区切ってフレーズ毎の練習を行う。

・楽譜を指で追いながら、全体指導を行う。

＊難聴の児童の前で楽譜を指で追いながら、指導を行う。このことにより、全体練習の中で個別指導を行うことができる。

・本児が参加しやすい歌唱の方法を、自分自身で判断させる。

＊教師の口形を見て歌うか、隣の児童に楽譜を指で追ってもらって歌うか選択させる。

・リコーダーなどは、自由練習の時間を設ける。

＊その時間内に個別に指導をする。

◇その他

－予習について－

・新しい曲を取り入れる際は、音楽の教師が、難聴通級指導学級の担当者に伝える。歌唱曲はビデオ撮りし、楽譜と併せて本児に渡す。曲が難しい場合は、難聴通級指導学級で、個別指導を行い、家庭でもビデオや楽譜を活用して練習する。

－合奏への参加のさせ方について－

・曲目によっては、皆と同じように演奏することが難しい場合もある。その際は、参加できる部分だけ演奏をすればよいという配慮をする場合もある。

③　授業者の本児に対する評価

・導入の既習曲では、「てぃーちでぃーる」からは、学級の児童の表情が豊かになり、身体表現も現れていた。本児にとっては手話を加えての歌であったので、教師の手話に注視し、本児も笑顔で手を動かしていた。「わが想い風になり」は小さいながらも声が出ており、周囲の様子に関心をもちながら、楽しそうに活動に参加できていた。

・「グランド電柱」は全体的に伸び伸びと歌っており、児童の表情から見て、すずめの動きもイメージできていた。

・「いるか」は、始めに友達が詩を読んだ。比較的、情感を込めて上手に読んでいた

が本児には、理解できていなかった。しかし、範唱に移ってから、手話が加わったことや視覚的な教材（絵）が加わったこともあり、少しは身体表現も加えながら歌っていた。

・リコーダーの合奏は２回目だが、各自のパートを吹けている子ども達が多かったので、本児も含め、個別の課題が必要な児童の指導に絞っていく必要がある。本児はピアノ伴奏を聞きながら合奏できていた。また、自分の選んだパート１では正しい指遣いで、拍の感じもわかっていたので、本児のこの時間におけるねらいは達成できた。・評定は「できる」（３段階中、２のレベル）。

④　指導上の配慮

・本授業の指導者は、子ども達に合わせ、教師自身の取り組み方を柔軟に変えながら、音楽科としてのねらいを達成するために様々な工夫を行っていた。難聴の児童のみではなく、他にも個別の支援が必要な複数の子ども達に対しても、適切な配慮を行っていた。難聴の児童に良かれと考え取り組むことが、他の子ども達を育てることにもつながっている。

・難聴の児童に合わせて授業を進めると、音楽に対する高揚感が学級全体では得にくくなるような場合もあった。一方、教材の難易度を上げると難聴の児童が参加しにくくなり、本児の中で育ちつつあった音楽に対する興味・関心が薄れてしまう。このような中で、本児に対する配慮が考えられ、本児も技術的には正確に音や声が出せなくても、音楽に興味・関心を持ち、自分なりに表現するようになった。聴覚に障害があっても、通級指導学級と連携して音楽の活動に取り組み、音楽に対して興味・関心をもって取り組めるようになった。なお、難聴の児童に対する評価を含め、様々な指導内容・方法の工夫や配慮を、他の教師にも、広く知らせていくことが必要である。

・配慮のし過ぎがあったり、他の児童との差が著しかったりすると、配慮される児童も他の児童も納得できない。助け合うことの大切さを日常的に指導する必要がある。

（２）　英語の指導や評価における支援と配慮（中学校2年）

①　英語の授業の例

◆題材　　過去進行形：LESSON 3　「Student Reports」2

◆指導目標　言語材料＝be動詞の過去形was、wereを使った疑問文と答え方。

言語活動＝きのうの天気について「話すこと」、「書くこと」の言語活動を行う。

本文について「聞くこと」、「読むこと」の言語活動を行う。

◆　生徒の様子

対象の生徒は、校内に設置されている難聴通級指導学級に通級している。聴力の程度は85デシベルから100デシベルで、対面して話せば聞き取れるが、在籍学級の授業で教師の声を聞き取ることは難しい。英語のリスニングでは、特に、オーディオ機器からの音声は困難である。また、日常接していない英語の発音も聞き取りが難しい。

学習内容	◇留意点と○評価	◆難聴の生徒への支援　●評価
・「昨日は忙しかったか？」と日本語で質問し、英語で答える。 （復習） I was busy yesterday ・同様の質問を英語で尋ねる。 ・Yes, I was.　No, I wasn't.という答え方を教える。 ・疑問文と答え方について説明する（板書）。	○be動詞の過去形を使って答えられるか。 ○Yes/Noだけでもよいから積極的に答えようとしているか。	◆質問を板書する。 ◆他生徒の答えを、口形を見せてゆっくり復唱、または板書して伝える。 ◆質問を文字で伝える。 ◆矢印や色を多用し、板書をわかりやすく詳しくする。
・キーセンテンスを暗唱する。	◇全員がキーセンテンスを言えるようにする。	◆キーセンテンスを板書し、暗唱する箇所を指し示す。 ◆正しく言えているか聞いて確認する。
・プリントを配り、前日の世界主要都市の天気について英語で説明する。 （例）It was fine in Osaka yesterday. It was cloudy in Sydney. ・いくつか質問をして、答えをノートに書かせる。 Was it fine in（　　）？ ・生徒同士がペアでQ and Aを行う。	○正確に聞きとれ、適切にノートに答えられるか。 ○意欲的に練習しているか。	◆英語の説明文をメモにして渡す。 ◆プリントの拡大コピーを提示し、視覚的にフォローしながら説明する。 ◆（　　）内の都市を、プリント上で指で示し、質問する。 ●英語の説明文を正確に理解し、質問に対して、答えを適切に書いているか。 ◆ペアの生徒にゆっくり話すようアドバイスする。
・単語の意味の確認、発音の確　認。（フラッシュカードで行う。）	○全員が読めているか。	◆読みを発音記号もしくはカタカナで示し、それを見ながら単語を読ませる。 ◆アクセントは手を突き出すなど身体表現で生徒に伝える。 ◆フラッシュカードは品詞で色別し、アクセント部分に色をつけておく。 ●カタカナ読みで読むことができるか。単語の日本語の意味を理解しているか確認する。
・ピクチャーカードを使って本文Oral Introductionを行う。 （絵を見ながら、まずlisteningで内容を理解する） ・文を読んで内容を理解する。	○内容を理解できたか、興味をもったか。	◆手話の表など実物を用意し、視覚的にイメージを膨らませる。 ◆教科書の読んでいる部分を指で示す。
・本文の内容について英語で質問をする。 ・各自答えをノートに書く。 ・教師の後について読みの練習をする。 ・手話について簡単な知識を紹介する。 ・予習の指示をする。	○正しく理解しているか。ノートに書いているか。 ○正確に読めているか。	◆質問を文字で示す。 ●質問の文字を見ながら答えることができたか。 ◆音読している箇所を指し示す。 ◆正確に読めているかチェックする。 ●カタカナで表したとき正確であればよいとする。 ◆手話に関する知識があれば、披露してもらう。 ◆予習の指示は板書する。

② 指導上の配慮

・英語の授業では、リスニング・スピーキングなどの音声活動が重視されている。上記の授業でも、1単位時間の約半分は、英語による音声活動が占めているため、「聞く・話す」活動には様々な支援や評価上の配慮を要する。

・「聞く」活動においては、機械を通した音声は聞き取りにくく、オーディオ機器の使用が不可能な場合もあり、口形を見せる、文字化して伝える等の視覚的な支援が有効な手だてとなる。板書はわかりやすくし、手話の表を用いるなど、視覚的な教材を活用することが大切である。

・会話や、QandA等の学習活動では、できる限り、文字化して伝えるようにする。

・一般の生徒と同じような方法でのリスニングは困難であるため、定期考査等におけるリスニングの方法や評価における配慮が必要である。

・「話す」活動においては、英語特有の発音の習得は困難であり、発音を聞いて習得するのではなく、新出単語にはカタカナを振り、それを読んで発音するという評価上の配慮を行った。

・「読む」活動においては、一般の児童・生徒のように自然に音声言語を身につけることが困難であり、言語力が育ちにくくなる場合もある。語いに関しては、抽象的な言葉や、場合によっては身近な言葉でも身に付いていない生徒がおり、言語力の観点から、英文だけではなく、日本語の意味を理解しているかどうか確認をすることも大切である。

・外国語の学習は困難を伴うが、授業者の話しを全て補聴器により、理解することは難しいので、板書やメモを活用するなどの配慮は必要である。

・第三者による要約筆記や、文字によるコミュニケーション支援や学習支援もできる限り考えていかなければならない。

V 研究のまとめ

通常の学級では、小・中学校学習指導要領に基づき評価規準を設定して、一人一人の児童・生徒について学習状況を適切に評価する取り組みが進められている。しかし、通常の学級に在籍する障害のある児童・生徒の評価を行う際、各教科の学習活動を進める上で、障害に基づく種々の困難により、学習活動そのものへの参加や学習内容の習得が難しい場合もあり、適切な評価を行う上でとまどいも少なくない。

本研究では、通常の学級において各教科等の学習の評価を行う際、障害の状態等に応じた適切な評価を行うために、障害に基づく種々の困難が影響する評価の分析により評価上の配慮事項を明らかにし、障害に配慮した指導の工夫を行い、適切な評価につなげる指導事例を示した。

障害に基づく種々の困難が影響する評価の分析では、通常の学級における各教科の指導のうち、弱視と難聴の特性から特に学習上の困難がある教科を取り上げ、児童・生徒の学習状況を的確に評価するうえで、障害が起因して評価が困難な評価規準を取り上げ、その理由を明確にした上で、指導上の支援や配慮について一覧表を作成し、例示した。また、障害に配慮した指導の工夫では、在籍学校又は通級指導学級における指導事例を示した。

1　弱視の児童・生徒の「評価が難しい活動」と「指導や評価における配慮」

（1）　指導上の支援や配慮により、他の児童・生徒と同一規準で評価する場合

社会・理科・算数（数学）等の教科において、細かい物・複雑な物を見る作業や、遠くの物を読み取るような活動、手元の作業に正確さを要求される活動などにおいては、配慮なしでは学習活動への参加が困難であり、評価も難しい。しかし、一人一人の状態に応じて、次のような配慮を行えば、他の児童・生徒と同じ規準で評価できる。

① 見るものを拡大する機器の使用

＊弱視レンズ、単眼鏡、高倍率のルーペ、拡大読書器等

② 教材の工夫

＊拡大、明度差のはっきりした彩色、要素を厳選、重要事項の強調等

③ 見えやすい環境の整備

＊座席の配慮、教室内の採光、手元を明るくする配慮等

④ 事前指導

＊ビデオ教材の活用、通級指導学級との連携、個別指導、家庭学習等

⑤ 作業時間を多く確保する。

例）題材を選定し、少なくする。

放課後等の時間を利用する。

また、体育では、跳び箱の手を付く位置にカラーテープを貼る、踏み板と床の色を変える、走る目安となるラインをはっきり書くなどの配慮により、学習活動へスムーズに参加できる場合もあることもわかった。

（2）　代替の課題や個人内評価を活用して、評価をする場合

指導上の配慮を行うことで学習活動に参加できるが、体育等で、他の児童・生徒の動きを見ながら素早く動いたり、ボールの動きを追ったりしなければならないような球技や、チームプレーに参加することは困難な場合がある。また、理科・社会・算数（数学）等では、他の児童・生徒よりも作業に時間がかかり、一定時間で作業が終了しないこともある。そのような場合は、次のように代替の課題を与えること可能である。また、課題に対して取組む姿勢や到達度等について個人内評価を活用する必要がある。

① チームプレー等参加が難しいものについては、同じ種目で、個人でできる別な課題に代え、弱視の児童・生徒のみの到達度を設定し、評価する。

例）バスケットボールでは１対１で行うパス、一人で行えるシュート等に代え、個人技能を評価するなど

2　難聴の児童・生徒の「評価が難しい活動」と「指導や評価における配慮」

（1）　指導上の支援や配慮により、他の児童・生徒と同一規準で評価する場合

音楽や英語等の教科において、歌ったり、聞いたりすることを基に作業することを要求される活動においては、配慮なしでは学習活動への参加が困難であり、評価が難しい。しかし、一人一

人の状態に応じて、次のような配慮を行えば、他の児童・生徒と同じ規準で評価できる。

① 視覚的な教材の多用

＊写真、絵、板書、プリント等

② 聴覚の活用をしやすい環境の整備

＊座席の配慮、騒音対策、周囲の友達からの支援等

③ 事前指導

＊ビデオ教材の活用、通級指導学級との連携、個別指導、家庭学習等

（2） 代替の課題や個人内評価を活用して、評価をする場合

指導上の配慮を行うことで学習活動に参加できるが、音楽の鑑賞や英語のリスニング等の活動に参加するのは困難な場合がある。そのような場合は、次のように代替の課題を与えること可能である。また、課題に対して取組む姿勢や到達度等について個人内評価を活用する必要がある。

① 音楽の鑑賞等は、活動が可能な別の課題に代え、その到達度を評価する。

例）鑑賞する曲と同じ作曲家の本を読み感想を書く

振動を感じ取ることで本人なりの感じ方を表現させるなど

② 英語のリスニング等は、読解問題に代え、内容を理解について評価する。

3 今後の課題

通級指導学級では、通常の学級に在籍する児童・生徒に対して、障害に基づく種々の困難を主体的に改善・克服するための自立活動の指導を中心に、加えて、教科の補充指導等を行う場合もある。通級指導学級の担当教員は、障害への対応については専門的な指導のノウハウを蓄積している。今後は、通級指導学級で行っている教科の補充指導について、在籍学校の評価にどのように活かしていくか検討をする必要がある。さらに、他の障害にも対象を広げ、さらに通常の学級における評価規準・評価基準の検討を進め、障害のある児童・生徒が適切な評価を受けることができるよう、研究を進める必要がある。

また、在籍学校において、障害に対する理解が深まり、障害のある児童・生徒が学習活動に参加する際の様々な支援や配慮、評価に対する配慮が日常的に行われるよう、通級指導学級の知見を生かして啓発に努めることが大切である。